

やながわ

3月1日

今号の内容 ページ

- ◆災害と向き合う 2~7
- ◆国民健康保険からのお知らせ 8~9
- ◆柳川の若っかもんの主張ほか 10~11
- ◆年度末・年度初めの休日開庁 12
- ◆柳川水辺ギャラリーほか 13
- ◆市民のひろば(14-15) ◆川柳(15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(16-17) ◆情報わいど(18-23) ◆がんばったね(24) ◆柳川にこの人あり北島芳子さん(24) ◆もちふみデビュー(25) ◆保健ガイド(26-27) ◆新市史抄片(28)



さげもんシーズン始まる

柳川雛祭り・さげもんめぐりの始まりを告げる、おひな様始祭が2月11日に行われました。稚児衣装で着飾った園児ら約30人が、台車とさげもんを飾った山車に乗り、日吉神社から商店街を通り藤吉小学校までの道のりを約1時間かけてパレード。沿道ではアマチュアカメラマンや園児の保護者が、園児の姿をカメラやビデオに収めていました。

新 市史抄片

鶴味噌醸造の建物

問い合わせ 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

江曲で操業中の鶴味噌醸造株式会社
社の建物である並倉が、国の登録有形文化財であることはよく知られているだろう。その煉瓦の壁が掘割に映る美しい景観は、柳川の素晴らしさの一つに数えることができる。



並倉(左から北倉、中倉、南倉)



コメグラと主屋



古写真



本座敷

並倉は現在でも生産施設として機能しており、工場内部の様子は掘割から受ける印象と対照的である。ところで、並倉は北倉・中倉・南倉の3棟から成り、北倉と中倉の間には片流れ、中倉と南倉の間には小さな切妻の屋根を架ける。煉瓦造にみえるが、実際は、木造の柱と柱の間に一枚積の煉瓦の壁を設けた造りで、木骨煉瓦造という。北倉は大正7(1918)年、中倉は大正初期の建設で、南倉は明治39(1906)

年の建築を北倉建設時に改修されたと考えられ、大正7年に外観が完成したことになる。小屋組は3棟とも異なり、最も古い南倉が和小屋、最も新しい北倉が洋小屋、中倉は真東と合掌の簡単な小屋組である。鶴味噌醸造には並倉以外に明治39年のオケヤグラ、大正3(1914)年のコメグラ等の伝統的建造物が残る。主屋の一部が最も古く、創業当初の明治4(1871)年の建築である。それは、東側の道に面して格子を構えた部分やその北側の東座敷である。ただし、今の外観は古写真とは異なる。主屋の現在の状態は昭和6(1931)、7年の修理で出来たものである。このときに北側の庭に面して2階建が造られ、その

1階には12・5畳の本座敷を設ける。そこは、床の間・付書院・違棚を整えた本格的な書院造で、縁側境のガラス障子の組子、欄間は織細である。4.5畳の東座敷は明治35(1902)年に改修されたもので、本座敷よりも古風である。主屋内部の各所に設けられた彫刻欄間の中に大川榎津の出である「村石刻作」の刻印が確認される。主屋は柳川に残る数少ない大規模近代和風住宅として特筆される。また、明治・大正期の蔵が多数残ることも貴重である。鶴味噌醸造に残る伝統的建造物は、近代の醸造業の生業を実態として示す貴重な文化財である。

市史編集委員 松岡高弘

編集後記

●さげもんのシーズンが始まった。女の子の健やかな成長を願い飾られるさげもん。女の子であれ男の子であれ、わが子を思う親の気持ちには差はない。毎月、たくさんお寄せいただくもちふみデビュー。お子さんの写真や添えられたメッセージを見るにつけ、その思いが伝わってくる。●ノロウイルスに感染して2日間寝込んだ。感染源は息子たち。汚れた彼らの服やカーペットなどを扱ったので、そこからうつったのだろう。我が家で唯一感染しなかった妻は、家族を世話したにもかかわらずピンピンしている。妻には感謝だが母は強しを実感した1週間だった。(監法)

人のうごき

- 平成24年1月末現在
- 人口 71,487人 (前月比-74)
 - 男 33,870人 (-31)
 - 女 37,617人 (-43)
 - 出生 48人、死亡 95人
 - 転入 102人、転出 129人
 - 世帯数 24,638世帯 (+6)